

普及活動検討会実施報告書

(美里) 農業改良普及センター

実施月日：令和8年2月27日(金)

実施場所：美里農業改良普及センター

1 検討内容

No	検討項目
1	土地利用型農業法人の経営戦略と持続的経営の展開
2	北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による栽培の見える化
3	堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上
4	令和8年度普及計画

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村		マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
土地利用型農業法人の経営戦略と持続的経営の展開	4.0	<ul style="list-style-type: none">収支計画の作成や年間の収支状況の把握など経営管理能力が向上している。同じ悩みを抱える組織へ支援手法を共有し、波及してほしい。農地の利用や設備投資計画の見直しは良い支援だと思う。若手の雇用や年間の作業バランスが課題だと思う。新規品目のサツマイモやネギの栽培技術や異常気象対策、労働力確保の課題解決に向け支援をお願いします。	<ul style="list-style-type: none">対象法人の経営管理能力の向上に向け、専門家のコンサル等を活用しながら支援したところ、将来ビジョン(設備投資、人材雇用、組織体制整備)が作成され、法人自ら状況の変化に応じた見直しが行われるなどの成果が得られました。持続的な経営発展に向けた支援を継続するとともに、得られた知見を他の経営体に波及するよう努めてまいります。新規導入品目の安定生産及び面積拡大に向け、栽培技術の向上を支援するほか、気候変動への対応や労働力確保に向けた取組を推進していきます。
北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による	4.3	<ul style="list-style-type: none">ICT活用による栽培の見える化は生産者の意識変化に良い影響を与え、他産地との交流は若手生産者に良い刺激になったと思うので、引き続き支援をお願いします。栽培環境や病害虫発生見える化による情報共有で、若手生産者の技術習	<ul style="list-style-type: none">ICT活用によるデータ収集により、鹿島台アメダスと北浦園地の気温差や、害虫のピーク時期を見える化でき、生産者の意識向上や若手生産者の技術習得につながりま

栽培の見える化		<p>得に役立ったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地の気象データを収集し、病虫害防除や凍霜害対策に早期に対応できることは良いと思う。 	<p>した。今後も部会でのデータ共有や情報発信、他産地との交流の実施に向け、引き続き重点活動で支援していきます。</p>
堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の改善	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦栽培における堆肥活用事例紹介にまとめたことにより、早春堆肥散布の技術が広く地域に定着すると思う。堆肥生産販売業者一覧は他品目の指導にも周知をお願いする。 ・小麦の早春堆肥散布技術を他の地域にも普及させていただきたい。 ・化学肥料の高騰で堆肥の活用が見直され、小麦の収量向上や地力増進に繋がっており良いことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦（夏黄金）早春堆肥散布を3年継続したところ、収量の増加と地力増進の効果が確認されたことから、成果をまとめパンフレットを作成しました。今後は得られた知見を活かして生産者への情報提供を行い、普及に努めてまいります。
令和8年度普及計画		<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の課題を的確に捉えた内容となっており、普及活動の成果に期待しております。 ・施設園芸における暑熱対策について、園芸生産協議会を主体に実証試験をしたいと思っておりますので、試験方法や技術提供など支援をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者の高齢化や担い手不足、スマート農業技術の活用に加え、昨今の気象変動への対応は地域農業の大きな課題と捉えております。そのため、新規就農者や担い手の確保育成、スマート農業技術の活用支援はもとより、暑熱対策をはじめとした気候変動リスクを軽減するための技術支援が極めて重要です。委員の意見を参考に、関係機関と連携しながら、持続可能な農業経営の実現に向けた普及活動を推進していきます。